

5 畜 産

項 目	作 業 内 容
<p>(1) 梅雨時の畜舎環境及び飼料作物等の管理</p>	<p>(今月の作業のポイント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○梅雨時の畜舎環境及び飼料作物等の管理 ○ハエ対策 <p>四国地方の梅雨入りは平年6月5日ごろであり、今月の中旬頃までの気温は平年並み又は低い確率が40%と予報されている。この時期は次の事項等に注意して管理する。</p> <p>ア 畜舎環境の管理</p> <p>(ア) 搾乳牛は、乳生産による熱発生量が多いため暑さに弱い。また、雨天で湿度が高くなると、汗の蒸発による体熱放散の効率が悪くなる。県内の6月は、搾乳牛にとっては夜間でも暑熱ストレスを感じる気温であるため、呼吸状態や採食量を観察し、影響が認められたら送風を行う。</p> <p>(イ) 豚は、梅雨時の多湿等でストレスを受けると、他の豚の尾をかじること等がある。かじられた豚は、ストレスで飼料摂取量や増体量等が低下するため、換気による除湿や飼育密度を下げる等の対策をとる。尾かじりを行った豚を見つけ、群から早めに分離することも有効策の一つである。</p> <p>(ウ) 鶏の適温は16～25℃であり、6月の日中は適温以上となる。開放鶏舎では窓やカーテンを開け、気温を確認しながら送風機を稼働するなど、鶏舎内の気温上昇を抑える。ウインドレス鶏舎では、鶏舎内温度が均一になるよう換気扇を制御する。</p> <p>イ 飼料作物等の管理</p> <p>トウモロコシやソルガムは湿害に弱く、排水不良畑で栽培すると、播種後や梅雨時の降雨で出芽障害や生育不良を起こしやすい。収量が大きく低下しないよう、次の対策を講じる。</p> <p>(ア) 畑を見回り、排水溝がふさがっていないか点検し、清掃する。</p> <p>(イ) 明きよ(額縁明きよ)はほ場の周縁に沿って掘り、必ず排水口(水尻)につなげて排水する。ほ場の中に、明きよを直線状に掘る場合も、額縁明きよに必ずつなげて排水する。</p> <p>(ウ) 冠水したほ場では、根の障害、茎葉の損傷などで生育不良となる。水が引いた1週間後に、チッ素成分で1.0～1.5 kg/10 aの追肥を行い、回復を図る。</p>

項 目	作 業 内 容						
<p>(2) ハエ対策</p>	<p>ハエは、作業員や家畜に対し不快感・ストレスを与えるほか、疾病を伝播するなど衛生上の問題も引き起こす。ハエの防除は、生産性や家畜防疫の観点から重要であり、環境対策と薬剤による殺虫をバランス良く実施する。</p> <p>ア 環境対策</p> <p>ハエは湿った糞や飼料に産卵するので、産卵場所を減らすために早めに除糞する。また、食べこぼした飼料はこまめに掃除する。ハエの卵は温度 40℃以上で死滅するため、堆肥舎では堆肥の切返し等、発酵温度を上げる適正な処理が不可欠である。さらに、水分 50%以下で孵化率が低下するため、通風改善にも努める。</p> <p>イ 幼虫（ウジ）の対策に用いる主な防除薬剤</p> <p>羽化を阻害し死滅させる昆虫成長制御剤（IGR 剤）の利用が効果的であり、ハエの発生時期前から定期的に防除する必要がある（表 1）。</p> <p>表 1 ハエ幼虫の防除薬剤と使用方法</p> <table border="1" data-bbox="475 1124 1386 1294"> <thead> <tr> <th>薬 剤</th> <th>特 徴</th> <th>使用方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>昆虫成長制御剤 (IGR 剤)</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・防除効果が高い ・耐性ができにくい ・散布が容易 ・家畜・ヒトに安全 </td> <td>幼虫が発生しやすい場所（堆積糞周辺、汚水溜り、バンクリーナー周辺等）の糞上に散布する</td> </tr> </tbody> </table> <p>ウ ハエ対策に用いる主な防除薬剤</p> <p>薄暗い雨天、曇天、早朝や夕方等に、畜舎の天井や壁などにとまっているハエに殺虫剤を直接噴霧すると効果的である。羽化に合わせた、10～14 日ごとの対策が望ましい。</p> <p>殺虫剤には動物用医薬品も含まれており、ラベル等に記載された使用上（用量、用法、服装等）及び保管上の注意を厳守する。同じ薬剤ばかり使用すると、その薬剤が効かないハエが発生することがあるため（薬剤耐性の獲得）、異なる薬剤をローテーションする（表 2）。使用薬剤名や散布日等を記録し、保管しておく。</p>	薬 剤	特 徴	使用方法	昆虫成長制御剤 (IGR 剤)	<ul style="list-style-type: none"> ・防除効果が高い ・耐性ができにくい ・散布が容易 ・家畜・ヒトに安全 	幼虫が発生しやすい場所（堆積糞周辺、汚水溜り、バンクリーナー周辺等）の糞上に散布する
薬 剤	特 徴	使用方法					
昆虫成長制御剤 (IGR 剤)	<ul style="list-style-type: none"> ・防除効果が高い ・耐性ができにくい ・散布が容易 ・家畜・ヒトに安全 	幼虫が発生しやすい場所（堆積糞周辺、汚水溜り、バンクリーナー周辺等）の糞上に散布する					

項 目	作 業 内 容		
	表2 成虫（ハエ）の防除薬剤と使用方法		
	薬 剤	特 徴	使用方法
	ピレスロイド剤	効果) 速効性がある 注意) 残効性が小さい	水で希釈し、虫体に直接噴霧
	有機リン剤	効果) 残効性がある 注意) 家畜・ヒトに毒性がある	水で希釈し、ハエがよくとまる場所に噴霧又は塗布（残留噴霧）
	ベイト剤 (クロロニコチル系)	効果) 耐性ができにくい 薬剤の飛散・流出が少ない 注意) 施用面積が小さい	殺虫成分と誘因物質を配合した毒餌を摂食させるため、壁や柱に塗布（毒餌法）

(作成 農林水産研究所)